

極秘

常德殲滅作戰ニ於ケル教訓

昭和三十一年一月二十五日  
第九師團



1475

第一 作戰關係

大河ノ渡河戰鬪(附一般渡河)

渡河效程ヲ發揚スル爲メ機付艇舟ヲ使用スルヲ有利トス

説明 折疊舟ノミテハ馬匹ノ塔載能力低ク三舟門橋ニテ四頭ナリ

然ルニ機付艇舟ニ依ル門橋ニテハ約三倍ノ能力アリ

又操舟機ハ脆弱ニシテ長時間ノ使用ニ適セズ特ニ部品ノ一部ヲ現地

製品ヲ使用スルニ於テ然リ

狀況許ス限リ所在材料ヲ應用シ架橋スルヲ有利トス

説明 民船及戸板等ヲ利用シ架橋セハ著シク渡河效程ヲ發揚

シ得バク而シテ民船及戸板ノ收集ハ容易ナリ

今次作戰ニ於テ師團ハ潘家場ニ於テ其ノ東側ヲ流ル、河川(河幅三百  
米流速ニ米)ニ所在民船戸板ヲ以テ馱馬橋ヲ架設シ爾後ノ行動ヲ  
容易ナラシメタリ 架橋ニ爲步兵一大隊(中隊欠)ヲシテ民船及戸板ノ  
收集ニ任ゼシメエ兵中隊長ノ指揮スルエ兵約七十名ヲ八番鐵線ニ  
卷テ使用シ約六時間ヲ架設セリ此ノ際舟艇繫留ノ爲民  
家ニ在ル石臼ヲ使用セリ

3  
漕渡ヨリモ繰綱渡ヲ可トスルコトアリ

「説明」河岸ノ淤泥及河中ニ依リテハ漕渡ヨリモ繰綱渡ヲ容易ナリ

トス 特ニ所在民船ヲ利用スル場合ニ於テハ屢々艀ヲ隠匿シ之ガ發見  
困難ナルコトアリテ繰綱渡ニ依ラザルヲ得ザルコトアリ

々 制式渡河資材少數ナル場合ニ於ケル渡河戦闘

イ 民船ヲ併用スルヲ可トス

説明「民船ハ比較的容易ニ收集シ得ラルヲ以テ之ヲ併用スルヲ可トス而シテ支那艦ハ豫メ訓練セバ之ヲ使用スルコト容易ナリ尚日本式艦ヲ携行スル場合ニ於テハ艦臍ヲ同時ニ携行セバ簡單ニ舟艇ニ取り付ケ使用スルコトヲ得

ロ 人員器材ヲ制式渡河資材ニ依リ渡河セシメ馬匹ハ水馬ニ依リ渡河セシムルヲ可トス

説明「渡河ニ於テ最モ時間ヲ要スルハ馬匹ノ渡河ナリ故ニ馬匹ノ渡河ヲ水馬トセバ短時間ニ渡河ヲ完了スルコトヲ得ベシ然レ

5. 渡河資材ノ携行法

ドモ寒冷時ニ於ケル水馬ハ人馬ノ衛生上適當ナラザルモノアルノミ  
ナラズ水馬後ノ馬匹ノ手入容易ナラザルモノアリ

1. 馬匹ニ依リ携行セシムルヲ可トスルモ馬匹ノ利用困難ナル時ハ人カニ  
依ル運搬モ亦可ナリ而シテ利用スベキ水路アルトキハ水路ニ依リ  
運搬スルヲ最モ有利トス

説明シ馬匹ニ依リ携行スルハ容易ナルヲ當然ナリ而シテ今次  
作戰ニ於テ師團ニ配屬セラレタル渡河材料中隊ハ車輛編制  
ニシテ作戰地ニ於テ之ガ使用困難ナルモノアリシテ以テ馱載ヲ研  
究セシモ九五式折疊舟ハ馱載不可能ナリ故ニ一應人カ

運搬ヲ研究シ青竹ヲ以テ移送スルコト、セリ然レドモ舟艇  
以外ニ門橋材料燃料等アリテ著シク多ク人員ヲ要スルニ  
ナラス行動亦鈍重ナリ 是ニ於テ師團ハ新江口附近ニ於ケル  
渡河ニ使用スベキ舟艇ハ之ヲ揚子江及松滋河ヲ溯上シ廻送スル  
コト、セリ

ロ 折疊舟ノ長途溯江ハ操舟機ニ無理ヲ生スル虞アリ

説明今次作戰ニ於テ師團ハ折疊舟(三隻門橋)○單舟○ヲ  
浣市ヨリ揚子江及松滋河ヲ溯上シ新江口ニ廻送セリ 而シテ  
操舟機ハ長途ノ溯上ニ使用スルハ適當ナラザルモノアルニ鑑ミ  
軍ニ交渉ノ結果上揚家塔迄機付舢舨四ノ協カヲ得タルヲ

以テ該地點迄折疊舟ヲ曳航シ爾後松滋河ヲ自力ニ依リ  
新口ニ遡上セシメタルモ松滋河ニ於ケル流速豫期ニ反シ急ナリシ  
爲多ク、時間ヲ要セリ新口新江口間ハ下航ナリシモ新江口ニ  
於ケル渡河ニ方リテハ操舟機ニ故障頻發シ渡河ヲ澁滞セシメ  
タリ

## 6. 民船収集法

民船ノ収集ハ水濠地帯ニ於テハ容易ナルモ艀ノ發見困難ナル

コトアリ

説明「水濠地帯」ニテハ概ネ各戸ニ避難用ノ舟艇ヲ所持シアルヲ  
以テ之ガ収集容易ナリ然レドモ我が企圖ヲ偵知シ他ニ曳航シ

或ハ中洲ニ或ハ樹木ノ蔭等ニ隱匿シタルコトアルヲ以テ所要兵  
カヲ派遣シ收集ニ任ゼシムルヲ要ス 今次作戦ニ於テハ進發前  
得タル情報ニ依リ民船ノ多クハ持去ラレタルカハ感ヲ抱キアリシモ  
潘家場附近ニテハ短時間ニ百餘隻ノ民船ヲ收集スルコトヲ  
得タリ

而シテ艗櫂ノ多クハ持去ラレ或ハ隱匿セラレ之ガ發見困難  
ナルモノアルニ注意スルヲ要ス

### ク 應用渡河材料及渡河法

イ 應用渡河材料トシテノ板及竹、藁、高粱稗等ノ收集ハ  
容易ナルノミナラス之等ヲ使用シ簡單ナル櫂ニ依リ渡河スルハ



流速緩ナル河川ニ於テハ容易ナリ

説明」所在ノ戸板ハ簡單ニ渡河材料トシテ使用セラルノミナラス

竹、藁、高粱、桿等ハ其ノ浮カラ利用シ輕渡河材料トシテ

有利ニ使用シ得 而シテ渡河ニ方リテハ竹間單ナル櫂ニ依リ

漕渡シ次デ繰綱渡ノ方法ニ依ル時ハ容易ニ渡河スルコトヲ

得 流速大ナルトキハ櫂ニ依ル漕力大ナラザルヲ以テ困難ナリ

ロ 結束用トシテ鐵線、鋸及綱ヲ携行スルコト肝要ナリ

説明」應用渡河材料ノ結束用トシテ鐵線、綱ヲ必要ト

スルノミナラス相當量ヲ要ス 今次作戰ニ於テハ中隊毎ニ約百米

ノ綱ヲ携行セシメタル外個人毎ニ五米ノ綱ヲ携行セシメ極メテ

有利ニ使用セラレタリ 又鐵線及綱ハ操綱式渡河ノ際  
必要ナルノミナラズ舟艇固定ノ碇結束用トシテ使用セラル  
鋸モ亦結束用トシテ有利ニ使用セラル 今次作戰ニ於テ砲兵  
隊ハ之ヲ携行シ駄馬通過ノ爲橋梁亦補強ニ際シ橋板結  
束ニ有利ニ使用セリ

河川湖沼地帯ノ戦闘

ノ馬匹ノ携行ハ成ルベク之ヲ制限スルヲ可トス

説明「河川湖沼地帯ニ於テハ馬匹ハ最モ厄介ナル存在ナリ  
故ニ馬匹ノ携行ヲ制限スルカ又ハ残置シテ後追及セシムルヲ可  
トスル場合多シ

今次作戦ニ於テハ各部隊ノ携行馬匹ヲ制限シ歩兵一大隊ノ  
携行馬数ヲ五口頭内外トセル外河川湖沼地帯ヲ突破スベ  
キ部隊ノ馬匹ハ後方ニ残置シ突破後追及セシムルヲ

2. 先頭部隊ニ所要ノ浮囊舟及輕渡河材料ヲ携行セシメ  
輕易ニ河川湖沼地帯ヲ突破セシムルヲ西女ス

説明「先頭部隊ニ浮囊舟又ハ輕渡河材料ヲ携行セシメ  
河川湖沼地帯ニ於テ敵ト遭遇セル場合輕易ニ之ヲ突破シ  
得ル如ク裝備スルヲ西女ス而シテ民船等ハ多ク場合敵岸ニ  
繫留セラレアルコト多キヲ以テ一部兵員ヲ浮囊舟ニ依リ對  
岸ニ前進セシメ之ヲ抑留シ來ルヲ西女スルコト屢ニナリ又中員  
狭キ小流等ハ輕渡河材料ヲ使用シ輕易ニ渡河シ得ルコト  
多シ

今次作戰ニ於テハ師團ハ浮囊舟ヲ軍ヨリ借用シ之ヲ第一線  
部隊ニ携行セシメタリ

3. 水路ヲ利用シ或ハ輕渡河材料等ヲ使用シ局部的包圍ヲ

敢行スルカ狀況ニ依リテハ敵ニ介意スルコトナク河川湖沼地帯ニ彼岸マデ一舉ニ突破スルヲ要ス

説明「河川湖沼地帯ニ於テハ敵モ亦其ノ通過ニ困難ヲ感シアリ而シテ此ノ如キ地形ニ於テ戦闘セザルベカラザル場合ニ於テハ水路ヲ偵察シ之ヲ利用スルカ又ハ輕渡河材料ヲ使用シ容易ニ突破シ得ル正面ヲ偵察シ有效ニ輕渡河材料ヲ使用スルカノ方法ニ依リ局部的ニ敵ヲ包圍スルヲ要ス又狀況ニ依リテハ水路ヲ利用シ又ハ突破容易ナル正面ヨリ河川湖沼地帯ニ彼岸マデ一舉ニ突破スルヲ要ス

今次作戰ニ於テ師團ハ松滋河以東地區ノ敵ニ介意スルコトナク

一部ヲ新江口ニ突進センメタリ

1488

三 水上及湖上機動及戦闘

水上機動果敢奇襲的ニ實施セテ成功ス

説明 今次作戰ニ於テ師團ハ陳家台附近揚子江渡河點ヨリ  
新江口附近松滋河渡河點ヘノ舟艇ノ運搬ニ苦慮シ遂ニ揚  
子江及松滋河ヲ遡上回航スルトセリ而シテ浣市ヨリ上流ハ敵地  
ヲ突破セザルベカラザル狀況ナリシテ以テ歩兵約一大隊ヲ附シ恰モ水  
上機動部隊ノ如ク行動センメタリ

該部隊ハ百里洲東端新閘附近及新口ニ於テ奇襲上陸ニ成  
功シ當面ノ敵ヲ潰走センメタルノミナラス新口新江口間ハ所々敵火  
ニ依リ妨碍ヲ受ケタルモ尤ク之ヲ排除シテ新江口ニ到着セリ

水上機動ニ於テハ屢々陸上ノ敵ヨリ其ノ行動ヲ妨害セララルコトアルヲ以テ舟艇上ニハ所要ノ火器ノ射撃準備ヲ完整ニシ置クヲ要ス  
 「説明」陸上ノ敵ヨリ其ノ行動ヲ妨害セラレタル場合ニ於テハ直チニ上陸シ戦闘スルモ部ノ敵ナル時ハ之ヲ強行突破スルヲ可トスルコトアリ特ニ夜間ニ於テ然リトス此ノ如キ場合ニ於テハ舟艇ヨリ陸上ノ敵ヲ制壓スルヲ必要トス

又縦ヒ上陸シテ戦闘スル場合ニ於テモ舟艇ヨリ之ヲ掩護スルヲ要スルコトアリ故ニ舟艇上ニハ所要ノ火器ノ射撃準備ヲ完整ニシ置クヲ必要トス



四、山嶽地帯ノ戦歴

巾廣キ谷地ヲ隔テ、敵ト相對スル時ハ之ガ攻撃困難ナリ

説明「谷地巾廣キ時ハ我が射撃效果十分ナラザルモノアリテ

一部ノ火器ヲ掩護シテ前進セントスルモ支援シ得ザルコトアリ

而シテ支援火力ナク前進スル場合ニ於テハ敵ニ近迫シタル後徒ラニ

瞰制セララルコトアリ

今次作戰ノ大風口西方地區ニ於ケル殲滅戰ニ於テハ大風口西方

稜線ニ據レル敵ニ對シ望江山方面ヨリ攻撃手セシ部隊ハ本狀況

ニ遭遇セリ

2. 一見岷々タル山モ詳細ニ偵察スレバ馬匹ヲ通過シ得ベキ小徑アリ

説明「今次作戰兩河口附近ハ戦闘ニ於テ同地西北方山地ハ  
岩石露出シ岷々タルミナラズ至ル所断崖アリ馬匹ノ通過危マリ  
シモ詳細ニ偵察ノ結果小徑ヲ發見セリ江南殲滅作戰ニ  
於テモ同様ノ事例アリ山嶽ノ峻峻ニ畏服スルコトナク有ユル手  
段ヲ講ジ突破スルコト肝要ナリ

3  
標高高キ山嶽必ズシモ之ガ突破困難ナラズ標高低シト雖モ  
岩石露出シ或ハ断崖ヲナシ峻峻ナルモノアリ而シテ山嶽地帯  
ニ於テ岩石露出シアル道路或ハ石疊ノ道路ハ人馬ノ行進ヲ  
澁滞セシム

説明「圖上小流ノ標記アル兩側ノ山脚ハ水蝕作用ニ依リ断崖

ヲ成形セル箇所多キガ如シ 蓋シ森林林藪ク降雨後ニ  
増水ニ依リ首肯セラル、モノアリ 故ニ圖上縦ヒ標高低シト雖モ  
岩石露出シ或ハ断崖ヲナシ峻峻ナルモノアリテ之ガ突破必ズシモ  
容易ナラザルトコトアリ、

而シテ山嶽地帯ニ於テ人馬ノ行進ヲ澁滯遲延セシムルモノハ岩石  
露出シアル道路或ハ石壘ノ道路ニテ人馬ハ滑走シ馬蹄ハ石  
壘ノ間隙ニ陷落シ落鐵スルコト多シ

々  
山嶽地帯ノ戦果ハ遺棄死体ニ比シ鹵護品尠シ

説明 山嶽地帯ノ戦闘ニ於テハ遺棄死体ノ多クハ谷地ニ顛落  
シアリ 故ニ戦死者ノ携行兵器等モ亦、谷地ニ墜落シアルミナラス

進路上ニ遺棄セル兵器モ鹵獲セラレ、ヲ占領シ谷地ニ投棄スルニ  
アラザルヤヲ疑ハシムルモノアリ而シテ之ガ收集困難ナルヲ以テ多クハ  
放棄ノ狀況ナリ遺棄死体ニ比シ鹵獲品尠キ由因ナラムカ  
今次作戰ニ於ケル大風口西方地區ノ殲滅戰ニ於テハ其北側  
谷地ニ多数ノ遺棄死体ヲ見タルモ其ノ数ニ比シ鹵獲品ハ少数

ナリ

五、遭遇戦

一部ヲ以テ敵ヲ正面ニ拘束シ主力ヲ以テ側背ニ迂回スルハ最モ有利ナリ

説明し今次作戰ニ於ケル橋頭附近ノ殲滅戦ハ本要領ニ依ル半遭遇戦ナリ即チ一部ヲ以テ約一ケ團ノ敵ヲ正面ニ拘束シツ、主力ハ地形ヲ利用シ敵ノ側背ニ迫リ其ノ團部及休憩中ノ追撃砲連ヲ急襲シ大ナル戦果ヲ擧ゲタリ

1495

## 六 殲滅戰

1. 徹底セル攻撃力ノ發揮ハ殲滅戰完遂ニ最モ肝要ナリ  
説明「一度接觸セル敵ニ對シテ執拗ニ喰ヒ下ルコト必要ナル  
ト共ニ殲滅戰完遂ノ爲ニ攻撃力ニ引續キ果敢ナル追撃力ヲ  
断行スルコト肝要ナリ

今次作戰ニ於テ殘置部隊一部ハ當陽東南方地區ニ  
潛入セル敵ニ對シテ執拗ニ喰ヒ下リ晝夕食ヲ喫スルコ  
トナク傳家大包附近ニ於テ敵北月後ニ進出シ部隊ニ追及中  
ニ部ト共ニ之ヲ攻撃其大部ヲ殲滅セリ

2. 企圖ヲ秘匿シ急襲スルコト肝要ナリ

説明今次作戰ニ於テ師團ハ新江口ニ於テ松滋河ヲ渡河  
シ王家橋附近ニ進出シ恰モ劉家場方面ニ前進スル如ク  
装ヒツ、急遽枝江方面ニ前進ヲ開始セリ此ノ際師團  
主力ノ先頭部隊ハ觀音寺ノ敵ヲ急襲シ其ノ大部ヲ捕獲  
セリ

3  
適時所命ノ地點ニ進出スルハ殲滅戰完遂ノ基礎條件  
ナリ

説明今次作戰ニ於テ殘置部隊ハ龍白水鋪西南地區ニ  
進入セシ敵ヲ捕捉殲滅スル爲所有機動兵力ヲ擧ゲテ  
該地區ニ派遣シ之ヲ包圍センタリ各部隊ハ時刻現場ニ

進出シ左右連繫ヲ密ニ逐次包圍圈ヲ壓縮シ遂ニ敵ノ大部ヲ捕捉殲滅セリ

4 我ガ陣地前ニ膠着セル敵ニ對シテ殲滅戰ノ遂行容易ナリ  
説明「我ガ陣地前ニ膠着セル敵ハ少クモ攻勢力意志旺盛ナルヲ以テ捕捉容易ナリ

今次作戰ニ於テ殘置部隊ニ部ハ宜北三溪山陣地正面ニ執拗ニ攻陣前近ク膠着セル敵ニ對シ局部攻勢力ニ依リ其ノ部ヲ捕捉殲滅セリ

5 部下軍隊ノ現狀ヲ把握シ適時適切ナル命令ヲ下達シ



逐次包圍圈ヲ構成スルハ殲滅戰遂行ニ必要ナリ

説明「今次作戰ニ於テ師團主力ハ肖家岩附近ノ敵情鑑ミ  
其ノ主カラ以テ正面ヨリ攻撃セシメ有カナル一部ヲ肖家岩西  
北方地區及西南方地區ニ進出セシメ敵ノ退路ヲ遮断シ包圍  
圈ヲ構成シ各部隊亦適時所命ノ地點ニ進出シ敵ヲ捕捉  
殲滅セリ

6.  
同一方面ニ進出セル部隊が相互ノ連繫ヲ緊小密ナラシムルハ殲  
滅戰遂行ニ必要ナリ

説明「古賀支隊方面ニ派遣セラレタル安藤部隊ハ羊皮塙  
方面ヨリ前進シ大風口西南地區ニ在ル敵ヲ攻撃ス

吉武部隊長ハ古賀支隊方面ノ敵情ニ鑑ミ歩兵約一大隊ヲ  
大風口方面ニ派遣セリ古賀支隊亦一部ヲ同方面ニ派遣セリ  
是等部隊ハ相互ノ連絡ヲ密ニシ大風口西方地區ニ於ケル殲滅  
戦ヲ遂行セリ

ク使用兵力ニ應ジ殲滅スベキ目標ヲ限定スル區分撃滅ノ方  
法手段ヲ研究スルヲ要ス

説明從來ノ戦闘指導ヲ觀察スルニ使用兵力ニ關係ナ  
ク當面ノ敵全兵力即チ使用兵力ニ比シ大ナル敵ヲ捕捉セン  
トシ或ハ使用兵力ニ比シ廣大ナル正面ニ於テ敵ヲ捕捉セントシ  
及ツテ之ヲ逸セル例多シ

8. 火力ノ使用ト突撃手トノ關係ヲ適切ナラシメガレバ敵ヲ逸スルコト  
多シ

説明し攻撃手ニ方リ先ヅ砲兵等ヲシテ射撃手セシメタル後歩兵が  
攻撃手前進ニ移ルガ如キ對支戰鬥法トシテ適當ナラス裝備  
優良ナル敵ニシテ其ノ陣地亦堅固ナルガ如キ場合等ニ於テハ或  
ハ所要ノ砲兵射撃等モ亦必要ナリト雖モ對支戰鬥ニ於テ  
ハ多クハ其ノ必要ヲ認めザルニナラス及ツテ砲撃手ニ依リ敵ヲ逸スル  
場合多シ 部隊ハ宜シク地形ヲ利用シ射撃手ヲ行フコトナク  
專ラ潛進、敵ニ近迫シ突撃手スルコトニ努ムルヲ要ス  
今次作戰ニ於ケル王家岷附近ノ安藤部隊ノ戰鬥ハ過早ニ

砲撃ヲ開始セシ爲敵ヲ逸シタリ

1502

七、突進突破ノ西女領

ノ突進部隊ノ編成ハ其ノ行動ヲ輕快ナラシムル如ク考慮シ行動ヲ鈍重ナラシムルモノハ殘置スルヲ可トス

説明「突進部隊ニシテ其ノ行動輕快ナラザル時ハ凡ソ價值ナキモノト云フベシ故ニ行動ヲ鈍重ナラシムルモノハ寧ろ殘置スルヲ可トス  
今次作戰當初ニ於テ水濠地帯ヲ突破シ新江口ニ突進セシムベキ部隊ハ馬匹ヲ殘置セリ又肖家岩附近ニ殲滅戰指導ニ於テ敵ノ北月後ニ突進セシムベキ部隊ハ最小限ノ馬匹ヲ連行シ他ハ之ヲ殘置シ極力行動ヲ輕快ナラシムル如ク處置セリ  
2、突進突破ヲ實施スル場合ニ於テハ二箇ノ攻撃手部隊ヲ設ケ

超越突進セシムルヲ可トス

説明「一箇ノ攻撃手部隊ヲ敵陣地ヲ突破シ次デ突進ヲ敢行

セシムルハ通常突進ノ時機ヲ失スルノ嫌アリ故ニ突破ニ引續キ

間髪ヲ入ルコトナク突進セシメシガ爲ニ豫メ別箇ノ攻撃手部隊ヲ

掌握シアルヲ可トス

3. 敵陣地ノ間隙或ハ薄弱部ヨリ一部隊ヲ楔入シ要點ニ突進

セシムルハ爾後ノ戦闘指導ヲ有利ナラシムルコトヲ得ベシ

説明「今次作戰ニ於ケル肖家岩附近ノ戦闘ニ於テ小池部隊

ハ比較的敵ノ配備薄弱ナル方面ヲ所在ノ敵ヲ撃破シツ、

鄭家椽屋附近、安藤部隊ハ敵ノ間隙ヨリ楔入シ盧坪附近

近ニ夫々突進シ爾後ノ師團ノ作戰指導ヲ有利ナラセタリ

1505

八 作戦速度ヲ増大スル爲採リシル手段方法

人 馬匹ノ連行ヲ最小限ニ制限シ行動ヲ輕快ナラシメタリ

「説明」多數馬匹連行ハ部隊ノ行動ヲ著シク鈍重ナラシムルモノ

アルヲ以テ極力制限シ歩兵ト大隊ノ馬匹ヲ五口頭内外トセリ

故ニ各部隊ノ行動ハ概ネ輕捷ナリキ

二 晝夜連續數日ニ亘ル機動力ノ發揮

「説明」作戦速度増大ノ爲晝夜連續數日ニ亘ル作戦ヲ實施

セリ而シテ夜間機動力ハ晝間ノ二分一乃至三分一ナルミナズ

疲勞大ナルモノアリ又道路不良ナル場合ハ晝間ハ容易ニ迂回

路ヲ發見シ得ルモ夜間ハ多クノ努力ヲ要スルノミナラズ夜間ハ些細ノ



地障ノ爲思ハサル時間ヲ費消スルコトアリ

18

1507

九 其他必要ナル事項

連絡ニ關スル著意ヲ向上スルヲ要ス

説明凡ソ卓拔ナル統帥指揮モ連絡不十分ニシテ適時部下ノ

狀況ヲ承知セザルニ於テハ狀況ニ應ズル指導適切ヲ缺ク至ルベシ

故ニ部下ハ適時部隊ノ態執力及狀況ヲ上級指揮官ニ報告ス

ルヲ要ス

而シテ無線ノミニ依リ連絡スル場合ニ在リテハ指揮官ハ其ノ文信

時刻ヲ常ニ承知シ連絡ニ努ムルヲ要ス

報告内容ハ報告受領者ハ今何ヲ承知セントシアルヤヲ考察

シ起安ホスルヲ要ス

今次作戰ニ於テハ攻撃手豫期ノ如ク進捗セザル場合ニ於ケル連絡  
不十分ナリシト共ニ報告内容ニ必要ナル要件ヲ具備セラレガリシ  
モノ多シ

又  
追撃手即縦隊追撃手ノ觀念ニ捉ハレ易シ

説明「追撃」ノ初期ハ所謂戰場追撃ニシテ攻撃手態勢ノ儘  
追撃手ヲ敢行スベキモノナリ然ルニ敵退却ヲ始ムルヤ直チニ道路ニ  
依リ縦隊追撃手ヲ行ハントスル傾向アリ

1509

其ノニ 教育關係

補助部隊ノ戰場成果

1 軍紀嚴正ニシテ其ノ成果良好ナリ

「説明」平素ニ於ケル訓練成果ヲ發揮シ一般ニ軍紀嚴正ニシテ

徵用苦カ 俘虜等ニ比シ著シキ差異アリ

2 作業能力大ナリ

「説明」平素ニ於ケル訓練ノ結果徵用苦カ或ハ俘虜等ニ比

シ患者運搬其他作業能力著シク大ナルモノアリ

3 補助兵ニ對スル信賞必罰ハ彼等ノ向上心ヲ誘起シ成果向上ニ

大ナル影響アルヲ以テ適正ナラシムルヲ西女ス

説明補助兵トシテ勤務方優秀ナル者ハ適宜班長トシテ採用セラ  
ルノミナラス賞與ハ彼等ノ向上心ヲ誘起スルモノ大ナルモノアルヲ以テ  
之等ノ行使ヲ適正ナラシムルヲ要ス

々  
監視ニハ油断ナキヲ要ス

本作戦間相當數ノ協力兵逃亡セリ時期ハ軍隊ノ混雑スベキ  
就宿時、炊事時、不意ニ敵ニ衝突シタル時等ナリ

1511

二 兵團ノ編制ノ馬數ト戦力トノ關係及損害發生ニ伴フ戦力低下ノ狀況

一 野砲兵聯隊戦力貧弱ナリ

「説明」野砲兵聯隊ハ六中隊編制ニシテ一中隊ハ人員一三七名馬匹一〇七頭ナリ而シテ警備ノ關係上作戰ニ參加セシメ得ルハ山砲ニ門編成ノ三中隊ニシテ戦力極メテ貧弱ナルミナラズ輓馬ヲ駄馬トスル關係上能力低シ

二 師團工兵隊ノミテ大河ノ渡河ヲ實施セシメラルハ過重ナリ

「説明」師團工兵隊ノ機工手ハ特業ナルミナラズニテ中隊編制人員四〇名ニシテ能力貧弱ナリ

3. 師團ノ現編制ニテハ衛生機關及輜重隊ノ能力極メ貧弱ナリ

説明「師團ノ衛生機關トシテハ僅カニ野戰病院一ヶアルニテ而シテ人員三五名馬匹四五頭ニシテ作戦ニ方リテハ收療ニ任ズル外衛生隊的ノ任務モ遂行セザルベカラズ輜重隊ハ自動車ニテ中隊馱馬一中隊ニシテ馱馬中隊ハ人員一三名馬匹九六頭ナリ警備ノ關係上作戦ニ參加セシメ得ルハ馱馬五口頭前後ニシテ極メ貧弱ナルモノト云フベシ

4. 損害發生ニ伴フ戦力ノ低下ニ關シテハ師團ハ戦力ニ影響有ラ及ス程度ノ損害ヲ受ケル部隊ナシ

1513

三 基礎教育の徹底

一 敬言戒勤教の更ニ向上セシムルヲ要ス

「説明立哨中ノ歩哨ニシテ敬言戒心缺如シ漫然佇立シアルニアラズヤ  
ト疑ハシムルモノアリ敬言戒心ノ缺如ハ不慮ノ事能心ヲ發生スルコトアル  
ヲ以テ注意ヲ倍徒スルト共ニ敬言戒心ヲ更ニ昂揚スルヲ要ス

二 斥候ノ地形ニ應ズル前進法ヲ教育スルヲ要ス

「説明」斥候ノ地形ニ應ズル前進法ヲ承知セザルモノアリ 隠蔽地開  
豁地或ハ局地ニ於テモ常ニ同一隊形ヲ前進スルハ適當ナラス 斥候  
ニシテ前進法適當ナラザルト共ニ敬言戒心十分ナラスニシテ急遽衣ヲ受テ  
不覺ヲ採リシ戦例アルニ鑑ミ教育ヲ徹底セシムルヲ要ス

1514



3. 難路ニ於ケル馬匹ノ誘導法ハ更ニ向上セシムルヲ要ス

説明「難路ニ於ケル馬匹ノ誘導法未 熟ナリ特ニ局地ニ於テ廻

轉ノ際轉落セシムルモ或ハ駄載物ヲ一側ノ崖等ニ激突セシメ轉落

セシムルモノ等アリ

4. 傳令連絡兵ノ遞傳ノ訓練ヲ向上セシムルヲ要ス

説明「傳令連絡兵ノ遞傳ノ訓練十分ナラズシテ遞傳事項ハ

途中ニテ立ち消ヘトナルコト多シ

5. 夜間行動ハ益々訓練ヲ向上セシムルヲ要ス

説明「夜間動モスレバ喧噪トナルコトアリ特ニ地障ニ遭遇セル

場合ニ於テ然リトス又夜行軍ニ於テ行軍長徑著シク延長シ

且前方トノ連絡ヲ失スルコト屢ニアリ

1516

四、幹部ニ對シ將來特ニ訓練ヲ要スベキ事項特ニ精神要素ノ戰機ノ捕捉應變ノ機眼ノ狀況ニ應ズル的確輕快ナル指揮說明<sup>レ</sup>指揮官ハ常ニ正鵠ニ狀況ヲ判断シ克ク戰機ヲ捕捉シ獨斷機宜ヲ制セザルベカラス狀況上夜ニ入ルモ攻撃ヲ續行スベキ場合ニ之ヲ中止シ追撃ヲ敢行スベキ場合ニ徒ラニ態執カ整理スル等ノコトアリ又的確輕快ナル指揮ヲ行フ爲事前準備ヲ逐次完整シ初動ヲ迅速ナラシムルノ著意ニ缺グルモノ及部下ニ對シ的確ナル任務ヲ與ヘ所命必ズ之ヲ完遂セシムルノ熱意ニ乏シキモノアリ

2、確實ナル掌握

1517

「説明」部下軍隊ヲ確實ニ掌握スルハ指揮ノ要訣ナリ故ニ有  
ユル手段ヲ講ジ確實ニ部下ヲ掌握スルト共ニ上級指揮官モ  
對シテハ常ニ部隊ノ狀況ヲ報告シ自ラ進ニテ掌握セラルン者  
意ヲ必要トス

而シテ下級幹部ノ實情把握ノ努力カ不十分ニシテ掌握十分  
ナラザルモノ多シ宜シク勞ヲ惜シマズ自ラ現場ニ臨ミ實情ヲ確  
認スルヲ必要トシ部下ノ報告ノミニ依リ事實ヲ把握セントスルハ  
適當ナラス

3. 敢闘精神ノ養成

「説明」從來ノ戦闘結果ヲ觀察スルニ最後ノ結末ヲ與フベキ

一歩手前ニテ攻撃ヲ中止シ或ハ夜ニ入ルニ從ヒ戦闘ヲ中止スル  
モノアリ斯クテハ敵ニ態執カテ立テ直ス餘裕ヲ與フルノミナラズ接  
觸ヲ絶テ之ヲ逸走セシムルノ虞マルト共ニ不徹底ナル戦闘ヲ

繰返サザルベカラズ

故ニ度々戦闘ヲ開始セバト眞ニ鉄槌ヲ加フル如ク戦闘ヲ指導シ  
徹底セシメ一兵ニ至ル迄烈々タル闘志ヲ堅持セシムルヲ要ス

々有ニル困難ナル狀況ヲ克服シ任務ヲ完遂ニ邁進スル精神ノ

涵養

「説明」凡ソ戦闘ハ豫期ノ如ク順調ニ進展スルガ如キ場合ハ寧ろ  
稀有ニシテ各種ノ錯誤累積スルヲ通常トシ且困難ナル狀況ニ

遭遇スルコトアルハ當然ナリ而シテ是等有ユル困難ナル狀況ヲ  
毅然トシテ克服シ任效カノ完遂ニ邁進スル精神ヲ涵養スルヲ  
必要トス

困難ナル地形ニ遭遇シ之ガ突破ヲ躊躇シ熾烈ナル敵火ニ慄伏  
シ何等處置ヲ講ズルコトナク停止シ悽慘ノ狀況ニ際會シ攻  
撃ノ精神ノ鈍ルガ如キコトナキヲ要ス

5. 敵陣地ノ間隙又ハ薄弱ナル部分ヲ突破シテ敵背後ノ西女點  
ニ楔入スルノ要領

説明シ敵ヲ捕捉撃滅スル爲ニ本要領ハ屢々用ヒラルベキ方法トス  
而シテ地形ヲ判断シ敵陣地ノ狀況ヲ偵察シ潛入スベキ地點又ハ

6.  
突破スベキ正面ヲ考察シ果敢ニ之ヲ断行スルヲ要ス

地形ヲ利用シ或ハ敵火網ノ間隙ヨリ潜進シ敵陣地ニ近迫  
一舉ニ突入スルノ要領

説明「凡ソ戰場ノ地形ヲ觀察スル時ハ敵火ヲ受クルコトナク潜進  
シ敵陣地ニ近迫シ得ル地域アルニテハ敵陣地ノ編成或ハ銃  
眼ノ經始等ヲ仔細ニ觀察セバ其ノ火網ノ薄弱部乃至間隙  
ヲ發見シ得ベシ而シテ是等ノ弱點ヲ利用シ潜進敵陣地ニ  
近迫スルハ一見時間ヲ要スルガ如キモ熾盛ナル敵火ヲ制壓シテ  
前進スルニ比スレハ容易ナルモノアルニ鑑ミ之ガ訓練ヲ向上スルヲ  
要ス

支那軍ノ慣用戦法ヲ逆ニ利用シ或ハ其ノ行動ヲ判断シ敵ノ  
意表ニ出ヅル如ク戦闘ヲ遂行スルハ敵ノ心膽ヲ奪ヒ大ナル戦果  
ヲ獲得スルコトヲ得ベシ

「説明」敵ハ我が進攻ニ對シ概ネ晝間ハ頑強ニ抵抗スルモ夜間  
ヲ利用シ退避シアルヲ以テ夜間突破ヲ敢行シ或ハ敵ノ行動ヲ  
判断シ之ヲ掩撃スル等ノ戦闘指導ヲ行フ時其ノ心膽ヲ  
奪ヒ大ナル戦果ヲ獲得スルコトヲ得ベシ

1522



其ノ三 情報關係

一、敵軍ノ戰意戰力ノ觀察

ノ 全般的ニ逐次低下シアルモノト認ム

説明「江防軍第十八軍ハ戰意旺盛ナルモノアリシモ江南殲滅作戰時甚大ナル打撃ヲ受ケテ以來低調トナリタルガ如ク今次作戰ニ於テハ戰意ノ見ルベキモノナシ

又今次作戰ニ於テハ敵兵中ニ單ニ軍服ヲ着用セルニシテ小銃及銃劍ヲ所持セザル補充兵ヲ多數散見セルハ敵戰力低下ニ一端ト見ルベシ

二、我ヲ弱少ト觀シル場合ニ戰意旺盛ナルモノアリ

説明「今次作戦ニ於ケル殘置部隊正面ニ對スル敵反攻ハ相當  
熾烈執拗ナルモノアリシリ

右ハ我ヲ弱少ト觀タル場合ニ於ケル敵戰意ノ現レト判断ス

3. 敵ノ初動ニ強敵手ヲ與フル時ハ爾後ノ行動ヲ著シク消

極的ナラシム

説明「今次作戦ニ於テ敵第十八軍ハ三斗坪ヨリ急進シ漢洋河

ノ線ニ進出我ガ軍主力ノ南進ノ後其ノ主力ノ北背後ヲ脅威スベク

前進ヲ命ゼラレシモ古賀支隊及師團主力ノ部ト仁和坪東北

方地區及劉家場西北方地區ニ於テ強敵手ヲ與ヘラレタリ爾後第十八

軍ノ行動著シク消極的トナリタルノミナラス我ガ北月後ニ進入セシモ

其ノ行動ハ低調ナリキ

1525

二 敵軍戦法ノ觀察

一 我が包圍迂回容易ナル地形ニ於テハ敵ハ輕戦ノ後退避シ般ニ  
山岳地帯ニ於テハ頑強ニ抵抗セリ

説明「今次作戰ニ於テハ洋溪茶元寺劉家場以東我が包圍  
迂回容易ナル地形ニ於テハ縱ヒ松滋河ノ障碍アルモ敵ハ容易ニ  
後退シ前記地點以西ノ山嶽地帯ニ於テ抵抗ヲ試ミタル山岳地  
帯ニ於テ日本軍ヲ邀撃スベシトナス蔣介石ノ作戰指導ヲ遵  
奉セルモノト謂フベシ

二 從來我が陣地ノ間隙ヨリ内部ニ進入セル敵ハ後方攪亂ヲ企

圖スルフト多カリシモ今回ハ我が陣地ノ北背後ニ迫リタルハ注意心ヲ要ス

説明「今次作戦ニ於テ殘置部隊正面ノ陣地間隙ヨリ内部ニ  
進入セル敵ハ從來ノ如ク後方攪亂ヲ企圖セルモノアリシト雖モ  
亦龍泉鋪地區ノ如ク我が陣地ノ背後ニ迫リタルモノアルハ注意ス  
ベキナリ

2 攻撃ノ際一點ニ攻撃力ヲ集中シ突入シ來ル方法ハ逐次巧  
妙トナレリ

説明「攻撃手スベキ目標ニ對シ迫撃砲及山砲ノ集中射撃ヲ  
實施シ突撃部隊ハ砲彈ニ膺接シ再三突撃シ尚不成功  
ナルトキハ部隊ヲ交代シ執拗ニ突撃ヲ反復セリ

右狀況ハ今次作戦ニ於テ殘置部隊龍泉鋪及宜北正面ニ於テ

屢ニ見タル攻撃手要領ニシテ敵ハ豫備第四師及第一四一師ナリ

々 支那軍陣地ハ至近距離ニ於ケル火網編成十分ナラズ

「説用」今次作戰ニテ支那軍構築セル陣地ヲ仔細ニ點檢セルニ

掩蓋陣地ノ銃眼ハ多クハ遠距離射撃手ニ便ナル如ク構築セラレ

至近距離ニ於ケル火網編成十分ナラザルガ如シ 將來敵陣地ノ

攻撃ニ際シテハ地形地物ヲ利用シ速カニ至近距離ニ潛進シ撃

ニ白兵ヲ使用スル如ク攻撃手スルヲ有利ト思考セラレ

其ノ四 後方關係

一 兵站ノ運用

軍物及員收集班ハ所要ノ自衛カト收集ノ爲ノ運搬カトヲ  
具有シ獨立シテ活動シ得ルモノナルヲ要ス

説明シ今次作戰ニ於テ師團作戰地域ニ派遣セラレタルニ收集  
班ノ内ニ收集班ハ自衛カ絶無ニシテ尚ニ收集班共收集ノ爲ノ  
運搬カ極メテ貧弱ナリ爲ニ貴重ナル戦列兵ノ掩護ヲ必要ト  
シタルノミナラス運搬輸送ハ悉ク師團ニ依存シ收集班長以下ノ  
力カハ多トスルモ實質的ニ單ニ師團ノ物資員收集ノ一補助ヲ  
爲シ得タルニ過ギズ

交通輸送

人 現在ニ於ケル師團(軍直部隊ニ部ヲ含ム)駄馬ノ連續行動ニ於ケル積載量ハ平均八十疋(風袋共)ヲ限度トスルモ、如シ「説明」一般ニ駄馬ノ積載量ハ百疋ヲ基準トシ超過積載五十疋ヲ限度トセラレマルモ實際上行李輜重駄馬ノ現況ハ低格馬瘦削馬、大陸馬等多數混入シヤリテ能力之ニ應ジ得ズ其ノ平均駄載量ハ著シク低下シヤリ

1530



三 補給、給養

イ 作戦地ニ於ケル補足糧秣等ノ収集ニ方リ現地有力者ノ利用ハ效果大ナルニミナラズ宜撫上ヲモ適當ナリ

説明「今次作戦ニ於テ師團ハ各部隊共勉メテ現地有力者ヲ利用シ彼等ノ自主的活動ニ依ル皇軍ハ協カヲ行ハシメタル穩妥且效果的ニ軍需ヲ充足スルヲ得タルニミナラズ民衆復歸ヲ促進シエカ徴用等ニ利便ヲ得タリ

ロ 追送軍需品梱包ノ形状、大小、重量等ハ第一線兵團ノ送機關ノ種類ニ適應スル如ク工夫ヲ要ス

説明「今次作戦間補給セラレタル軍需品ハ砂糖、食塩六百斤

入麻袋、米、馬糧ハ五十疋入込ニシテ何レモ重量過大ナリ又煙草  
等ハ輕量ナルモ容積過大ナリ師團ハ已ムラ得ズ之等ヲ解捆シ  
馱載可能ナル如ク再捆包シ多大ノ繁瑣アリタリ

3  
今次作戦、時期ト地區トハ給養上相當ノ現地依存ヲ可能  
ナラシメタリ

「説明」今次作戦間補足糧秣ノ收集ニ困難ヲ感ジテトナシ  
ノミナラズ機動部隊古賀支隊方面第一線部隊一部ノ糧ハ  
間補給杜絶ノ状態ニ於テモ所在ノ甘藷等ニ依リ給養長シ  
上大ナル支障ナキヲ得タリ

1532

人衛生

作戰地道路ノ状態ニ鑑ミ應用擔架ノ轆ヲ約一米長ク  
シ擔架兵ヲ縦ニ配置シ大ナル效果ヲ得タリ

説明「作戰地ノ道路ハ狹隘ニシテ特ニ降雨等ノ際ハニ列擔送ハ  
困難ナレバナリ

2、籠醫極一箇ニ付攜帶天幕ヲ附シ多大ノ便益ヲ得タリ

説明「攜帶天幕ヲ内容品袋トシ使用セルニ降雨時竝ニクリーク  
等ニ轉落セル際防水ノ價值大ナリ又患者保温材料蓋布圍ヲ  
製作)及應用擔架ノ床等ニ利用シ多大ノ便益ヲ得タリ天幕ノ  
應用品ニ就キ研究スル考ナリ

1533

3、注射液の一部ハ製材原料ヲ携行シ現地ニ於テ調製スルヲ可トスルコトアリ

説明シ今次作戦ニ於ケル當師團野戰病院ハ比較的長期間一也ニ開設セリ 偶ニコレラ患者發生スルヤ原料ヨリ糖液食塩水「リッゲル」液等ヲ調製シ以テ衛生材料ノ輸送量ヲ減少シ且輸送途中ニ於ケル容器ノ破損ニ因ル減量ヲ防止スル等多大ノ便益ヲ得タリ

4、乾燥瓦斯壞疽血清ハ出勤前豫メ溶液トシテ携行スルヲ可トス第一線部隊ニ於テ特ニ然リ

説明本血清ハ溶解ニ長時間ヲ要シ且滅菌餾水ノ携行ヲ必要トスルアリ

五、馬衛生

〃 硫化元青液ニ依ル白色毛馬ノ染毛ハ效果少シ

「説明」硫化元青ヲ染色セル馬ハ降雨ナキ場合ニ在リテモ一週間内外

ヲ脱色ス 今次如キ長期間ノ出動ニ效果少シ

〃 馬背ノ鍛練、馱鞍ノ適合、馱兵ノ訓練等ハ作戦準備中ノ

重要事項ナリ

「説明」今次作戦ニ於テ師團病馬ノ首位ヲ占ムルモノハ鞍傷馬ニシテ

其ノ發生時期ハ最大ノ勞役ヲ課セシ作戦第一期末以降ニ非ズ

ニテ警備態勢ヨリ作戦態勢ハ轉移時期タル集中行動間竝

ニ作戦第一期前半ナリ

即ち平時訓練ノ不足ト作戦準備ノ不十分ニ基因スルモ、如シ

38

1536

六、後方部隊ノ編成裝備

ハ協力兵ハ擔架要員トシテノ價值大ナリ

説明師團ハ本然ノ編制上野戰病院ニ患者收容隊ノ任務ヲ兼務セシメタル關係上作戰當初ヨリ步兵聯隊所屬ノ協力兵

百五十名ヲ野戰病院ニ配屬セリ其成績ハ極メテ良好ナリ

2 一、地ニ駐留スル公算多キ作戰ニ於テハ經理勤務班ノ編成ヲ特ニ

大ナラシムルヲ要ス

説明今次作戰ニ於テ師團ハ經理部長ヲシテ約一ヶ月半ニ亘リ余

家橋附近宿營部隊(給養兵額人二千馬八百五十)ニ對スル糧秣

カ定量補足糧秣ノ收集ニ當ラシメタルモ經理勤務班ノ人員(作戰

出發時將校以下二十名(寡少)爲戰列兵四十名ヲ増加スルノ已ムナキ  
ニ至レリ

3. 繫駕部隊ヲ馱馬部隊トシテ改編使用セシガ爲ニ平素ヨリ人馬  
ノ訓練ヲ必要トス

説明「今次作戰ニ於テ師團ハ配屬セラレタル渡河材料中隊繫駕  
ヲ改編シ馱馬輜重トシテ使用セリ然ルニ該部隊ノ馱馬トシテノ  
馬背鍛練ノ不十分、馱兵ノ裝鞍並ニ不祿同地馱法ノ未熟等ニ起  
因スル事故馬、作戰初動ニ於テ既ニ參加馬數ノ約三分ノ一ニ達シ  
爾後ノ運用上相當ノ支障ヲ招來セリ



七、上 鹵獲品及俘虜ノ處置

八、鹵獲品ノ後送ニ單ニ還行輜重ノミナズ強引ニ有テ輸送カラ  
使用セリ

説明「今次作戰ニ於テ皮油丸土砲ノ後送ニ方リテハ後方輸送機關  
ノ連續使用ハ勿論或ハ戦闘ノ間隙ヲ利用シ砲兵部隊ヲ使用シ  
或ハ戦闘旬餘ニ亘リ疲勞大ナル某步兵部隊ニ之ガ輸送ヲ命ズル  
等強引ニ部隊ヲ指導シ以テ限定期間ニ之ガ目的ヲ達成スルヲ  
得タリ

二、作戰間ニ於ケル俘虜ノ使用ニ方リテハ用途ヲ顧慮スルヲ要ス  
説明「今次作戰ニ於テ獲得セル俘虜ヲ當初工兵ニ配屬シ道

路構築ニ使用セシモ技術不良、大ナル監視兵力ヲ要スル等利  
用價値少ク次デ之ヲ野戰病院ニ配屬シ擔架要員トシテ  
使用セシ十分其ノ目的ヲ達成シ得タリ

1540

其ノ五 敬言備關係

陣地強化要領ニ基キ強化セル陣地據點ノ實戰的價値及  
將來ノ對策

一、強化セル陣地ノ價値ハ大ナリ

「說明」今次作戰ニ於テ殘置部隊正面ニ於テハ相當熾烈ニシテ  
執拗ナル敵反攻ヲ受ケシモ何レハ陣地モ之ヲ確保スルコトヲ得  
ルハ陣地ヲ増強セル賜ト謂フベシ

二、強化セラレタル陣地ニ於テハ守兵ハ安神シテ戰鬥セリ

「說明」陣地ノ強化ハ守兵ニ對スル精神效果大ナルモノアリ

三、將來ノ對策

益ニ陣地ヲ強化スルト共ニ露天陣地ニ總テ掩蓋ヲ附シ且障  
碍物ハ更ニ面式ニ構築スルヲ要ス

説明敵ノ砲撃ヲ受クル場合ニ露天陣地ハ損害多キヲ以テ  
將來總テ掩蓋ヲ附スルヲ可トス而シテ障碍物ハ必ず火力ヲ伴ハ  
シムルヲ要スト雖モ兵力ノ關係ニ依リテハ必ずニ妥員施シ得ラレザル  
モノアリテ敵ハ障碍物ヲ破壊シ進入シ來ルコトアルヲ以テ障碍物ハ  
更ニ幅ヲ深カラシメ面式ニ構築スルノ要アリ

1542